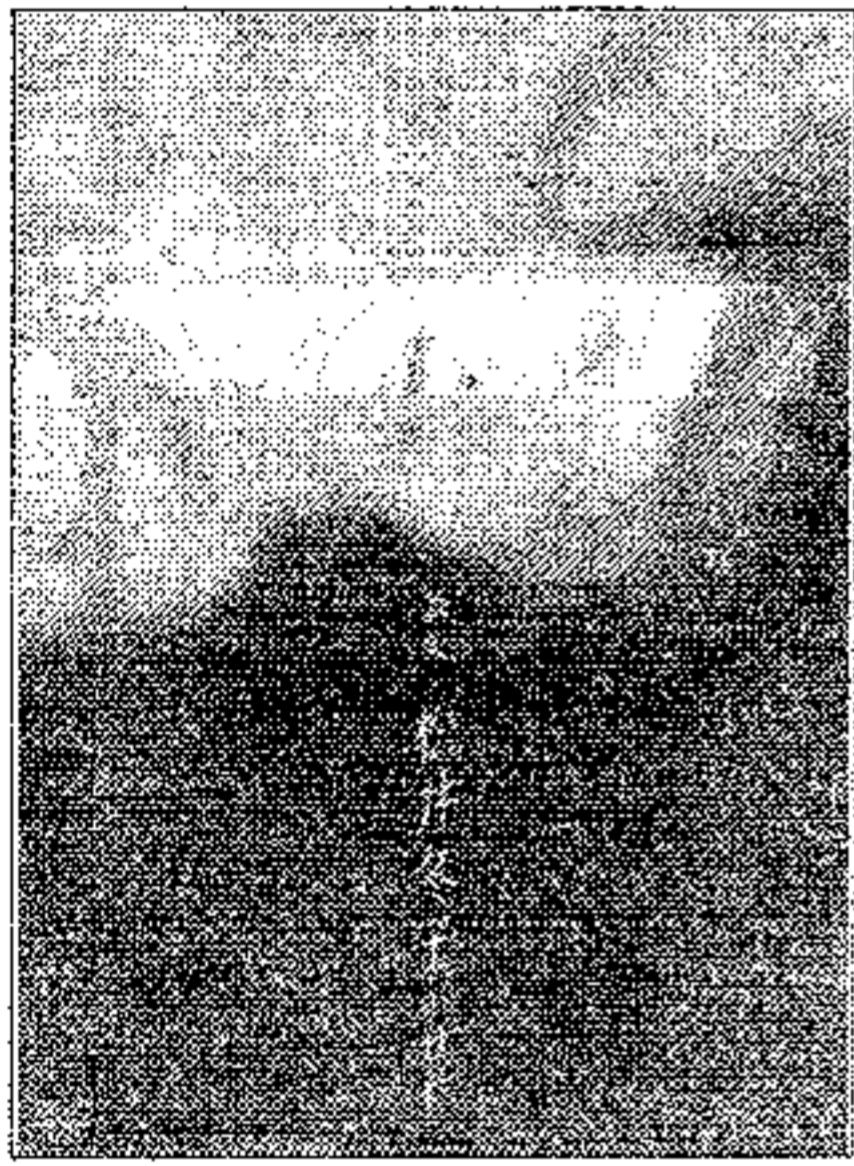


『痛みが美に変わる時 画家・松井冬子の世界』

昨年NHK教育で放映された番組が、同年11月にDVD化された。線にこだわり、徹底した写実を基に独特の情念や観念を描く画家、松井冬子の世界に迫るドキュメンタリー。

番組は、アトリエでの創作、本人とのインタビュー、そして3人の人物(山下裕二・美術史、布施英利・美術解剖学、上野千鶴子・ジエンター論)との対談で構成。上野との対談は冒頭と末尾に置かれて、この番組の基調を定める。

松井の描く対象の多くは、女性。かすかにほほ笑みながら、切り裂かれた自己の腹部の、胎児のいる子宮をこれ見よがしにした



番組は昨年4/20に放映され、6/21に再放送、7/20に再々放送、そして8/12には英語を主音声とするNHK国際放送でも放映。その反響は、DVDさえ作らせた

しまった。このひとが語ることは、その語り方だ。『この疾患を治療させるために破壊する』や、番組中その制作が取り上げられていた『ややるい圧痕

は交錯して網状に走る』にみるように、松井にとつてはこうした言葉とそれらが喚起するイメージがとても重要だ。ひとつひとつ言葉を選びながらされる慎重な発言にもそのこだわりがみえる。がしかし、彼女には、強い抑揚を伴って発される、それとは真逆にあるような発言があり、それらは番組中際立つことが避けられない。このひとの中には、収まり切らない何ものか、どんなに抑えようが溢れ出してしまつものがある。『蟻がはうように緻密に描いていく。じっくり質感を追い求める。やりたかつたのはこつちだ、と思いましたね』と語る日本画。彼女のそれは現

代アートとしてのものだが、しかし彼女が選んだのは、絹本で、しかも裏彩色という、ほとんど行われなくなつた古典技法だ。広い画面を平たく埋め尽くしていくこの長時間の強迫的な作業は、そのよ

うな松井のパワーを受け止めうる、最も適切なものであるに違いない。このDVDでは、『痛み』が「美」へと変えられていく瞬間を、確かに目撃することができる。

◎ジエンター論・大学非常勤講師

皆川満寿美

ビデオ
& DVD

はかつていただろうか。目を背ける男性に「狙い通り。それみたことか」と言い、「よくやってくれた」という女性からの反応には「理解してもらえてい

るなつてうれしかったです」と語る。初の画集には上野が解説を書いた。

その作品からだけでなく、この番組の中の松井自身から、強い印象を受け取るが、それはこのひとが語ることは、その語り方だ。『この疾患を治療させるために破壊する』や、番組中その制作が取り上げられていた『ややるい圧痕